

武庫川流域委員会 第 87 回運営委員会向け資料及びコメント (090127 開催)

090127 武庫川流域委員会委員 田村博美

1. 08 年度「武庫川づくりと流域連携を進める会」活動概要報告とお願い

1) 武庫流会活動概要

武庫流会は 07 年 4 月に発足し、毎月 1 回の定例会を開き武庫川づくりと流域連携をテーマに活動してきた。会員数は現在約 30 名。流域委員会委員の 6 割 14 名参加。今年度は助成金も「ひょうご環境保全創造活動助成」の 15 万 2000 円と少なく大きな活動はできなかったが本格的活動に向けたきっかけづくりができた。天然アユの復活への取組と武庫川ガイドブックの編集に重点。

一つは 11 月 2 日 3 日に開催された「川の全国シンポジウム」へのポスターセッション出展。

二つは今年 1 月 17 日に開催した「武庫川に天然アユの復活を〜フォーラム」。後者は年明けのあわただしい中にもかかわらず 70 名以上の市民、行政、専門家が参加し盛会であった。また、武庫川の川づくりへの関心の高さを感じた。

2) アユフォーラムの概要と分かった武庫川や大阪湾の課題 (別紙武庫流会ニュース NO1 参照)

・フォーラムの特色：「アユの生態に関する実践的研究者からの報告と武庫川へのアドバイス」「大阪湾の水域環境とアユ仔稚アユの生態及び環境改善の重要性」「川における淡水生物の生態環境として重要な点、たとえば砂州や砂州上の一次水域」等それぞれの立場から横断的な講演がなされ、たいへん貴重な勉強と情報交換となった。

・武庫川漁協木嶋代表理事組合長他武庫川に詳しいメンバーの参加による実践的な情報、意見交換ができ今後の武庫川天然アユ復活への具体的課題が見えてきたし、参加者同士の共有とこれからの協働目標ができた。「アユは水質を浄化し人々を惹きつけまちの活性化にも寄与する」。

・天然アユ復活への課題

①大阪湾、河川、都市やまちなどを含めた流域圏で水環境を捉える必要。川の環境改善だけでなく海や河口付近における干潟や砂浜などが必要。稚魚の成長を支える環境づくり。

②川・海の一連のスムーズなつながりが必要。魚道の改修、改築、堰や床止工等の見直し。堰による堪水域が仔魚の降下を妨げる。また稚魚の遡上を妨げる。

③川をより自然な形状にする必要。瀬、淵、砂州、常時流量の確保。アユの生息環境の改善。

④下流域に産卵場をつくる。

⑤水質は少々悪くても DO 濃度が高く、水深が浅く瀬や淵があり、コケがあればアユは十分生育する。

⑥基礎調査やプランを立てるときから市民や地元が参加協力して実践していくことが必要。

⑦アユだけに焦点をあてるのではなく多様な魚種や生物のことも考えることが必要である。

3) 地元の熱意と行政の協力が必須

①流域市民の熱意、漁協、地元自治体、県、研究者など多様な関係者が調査からプラン作り、実際の活度への参画をしていく必要がある。(矢作川もそのようにして専門家や研究者が指導し行政も支援し天然アユが復活した。)

②大阪府の取組例。事務局 NPO 法人芥川倶楽部(高槻市：天然アユをシンボルに活動中)では世話役として地元高槻市(市長公室政策企画室)、大阪府の土木事務所も力を入れ支援している。

2. 今後の活動と支援体制強化についてのお願い

①武庫流会は天然アユを中心とする武庫川の多様な生物生息環境づくりへの市民の立場から中核的役割を果たしていく所存である。これらの活動への全面的支援。

②その一環として水質調査への支援。

③武庫川ガイドブックづくりへの協力、支援。

④武庫川づくりと流域連携のその他の取組への活動支援。(川まち交流拠点、里川づくり等)